

ギャラリー・交流拠点・情報提供…

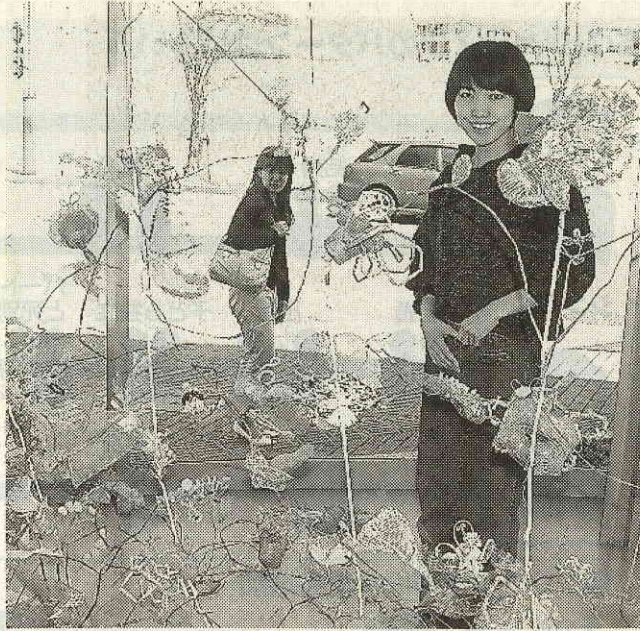
「芸術サロン」誕生

東京芸大の取手キャンパスがある取手市の街角に、芸術家や市民が出入りする「サロン」ができた。とりでアートコンシェルジュ（総合世話係）。民間が音頭をとって芸大や行政関係者が支え、作品展示、市内のアートスポットやイベントの紹介、芸術家とサポーターの「人材バンク」を置く。オープン前日の3日、関係者が会見し、「芸術家の卵を育て、観光振興のアート・ツーリズムを実現させたい」と意気込みを語った。

（佐藤彰）

「街活性化の一助に」

取手にきょう



市内には洋画、日本画、彫刻、陶芸などの郷土作家300人以上が活動し、芸大関係者も300人余り暮らしているという。「コンシェルジュ」は、JR取手駅東口そばのナガタニビルにギャラリー兼事務所を構え、そうした人的資源や活動をネットワーク化したり、市民とアーティスト、芸大生のつながりを促したりする。

初回の出品者キジマ真紀さんと、街頭からも鑑賞できる植物のオブジェ＝取手市のナガタニビル

市内には行政、芸大ボランティアが協力し、前に始まった取手アートプロジェクトがある。主に年に1回、秋に開くサロントだ。

今回発足した組織は主導の実行委員会が情報提供やコーディネート業務を担う。市職員を務め、芸大の先端芸術科の渡辺好明教授を講師、筑波大芸術学専攻出原康恵さんが事務局。

ギャラリーは金、土の午前10時から午後5時オープン。ほかの日からは鑑賞できるウイングギャラリーとなる。如芸大出身で市内にアート構えるキジマ真紀さんが、日用品を素材に、26日まで展示する。

長谷豊会長は「街に一助になればいい」と目下、芸術家を育てる友の会「ナガタニビル」を運営している。問い合わせは事務局原さん（090・4081339）、ウイング foride-art-conci（om）。